

長寿企業の研究

鷹 岡



老舗ジャーナリスト

1967年神戸大経営卒、松下電器産業(現パナソニック)入社。経営企画室長や取締役などを経て2007年に退社。関西外大や流通科学大、大阪商大大学院で教壇に立つ。公益資本主義推進協議会理事。著書に「老舗学の教科書」など。

前川 洋一郎氏



鷹岡東京支店は東京都千代田区の景観まちづくり重要物件に指定されている。

江戸後期の大阪十人両替商を察知して、本家へお暇願の流れをくむ鷹岡は、羅紗(らしゃ)問屋といわれる由緒ある毛織物卸商社である。羅紗とは上質の毛織物のことで、日本に持ちこんだポルトガル人の「ラシャ」または「ライシャ」という発音に、羅紗の字をあてた。

初代覚之助は、刻苦勉励の丁稚(でっち)時代に、明治新政府の産業金融政策切り替

えを察知して、本家へお暇願いをし、「これからは洋服の時代」だと、1885(明治18)年、メンズスーツの生地卸売業で独立を果たした。

鷹岡は、好況期に拡張、不況期に縮小の、船場の扇子商法で乗り切っている。浮沈の激しい業界で、スーツ向けウール素材の卸売りを主体に仕入れと処分の見切りをよくし、危機管理にたけて生き残

時代の変化を先取り

鷹岡の概要	
代表者	鷹岡恒有
従業員数	116人(非正規含む、2023年3月末)
売上高	130億円(23年11月期予想)
創業年	1885(明治18)年
創業内容	紳士・婦人服地の卸売業など
所在地	大阪市中央区

った。

戦前に羅紗の命は、最終仕上げの整理工程にあると確信し、染色整理事業を始め、自社の羅紗は全てこの工程より出荷し品質向上に努めた。カシミヤなど紡毛羅紗メーカーを買収し、この紡毛工場の製品は国内に並ぶものなしと名声を博した。

昭和50年代のオイルショックを境に繊維産業の構造不況が押し寄せてきた。扇子を締める緊急経営に転換し乗り切った。1975年には製品部をつくり、小売業にも進出した。

6代目の鷹岡章夫会長は、「20〜30年ごとに服地メーカー

し、既製服メーカー、小売店の主役交代が激しい」と語る。小売りは専門店に特化しつつある。製造拠点も国内から中国や東南アジア諸国連合(ASEAN)に移っていると、時代の変化を鳥瞰(ちようかん)する。

国内の紳士服地切売商は全盛期の1割に減少する中、鷹岡は今や切売商として、全国オンリーワンのトップだ。7代目の長男鷹岡恒有社長は第1に本業から外れることなく素材の販売拡大につながる新規アイデアの発掘を掲げる。第2にオーダースーツ縫製のデジタルトランスフォーメーション(DX)化で日本とASEAN工場との連携で、色柄・デザイン・サイズがすべて異なるスーツの生産をシャストインタイムで展開する卸売商社への変身を目指す。創業の志に立ち返り21世紀のスーツ文化の復権に燃えている。

「長寿企業の研究」は次回より筆者が交代します。